

このたびの東日本大震災により被害を受けられたみなさまに、謹んでお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧と、みなさまのご健康を心からお祈り申し上げます。

予定していましたが**3月の例会は中止**となりました。

～ イベント情報 ～

埼玉県の狭山市立博物館にて「ボンボン時計展—文明開化の時を告げた時計たち」が6月12日（日）まで開催されています。詳しくは下記ホームページにて紹介されていますので、この春のイベントとして、ぜひ行ってみたいかがでしょうか。

<http://www.city.sayama.saitama.jp/manabu/museum/index.html>

2 月例会報告



2 月の例会は東京マラソンと同日の 27 日、江東区豊洲文化センターで開催され 47 名の参加となりました。

なお、桑名名誉会員よりお茶菓子をご寄付いただきました。ありがとうございました。

毛利 友一さんより 昔の地方の時計屋さんの話



明治 38 年より時計屋さんという毛利時計店の毛利さんですが、子供の頃の思い出と共に戦中、戦後の時計屋業界の様子をお話していただきました。

当時は時計屋と言っても時計だけではなく、眼鏡、自転車、レコード、蓄音機の出前等も一緒に扱っていた事だとか、子供時代に服部時計店からの呼出状が来て仕入れの列に場所取りで並ばされていた時にそばで見ていた実際のやり取りの様子など、当時を知らない今の方には窺い知ることの出来ない貴重な内容のお話を聴かせていただきました。

また、数年前に改装をしたときに出てきたという珍しい品物の数々をお持ちいただき、そちらの解説もしていただきました。

時計バンドにゴムバンドが使われていたときの留め金具だとか、大変に昔の引札（広告）などといった貴重な品々や、中には毛利さん自身も使用方法がわからない工具などもあり、いろいろ興味の尽きない内容のお話でした。

金川 恵治さんより バイトの作り方



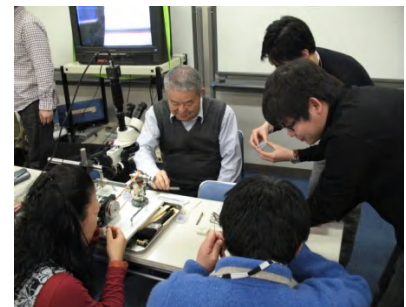
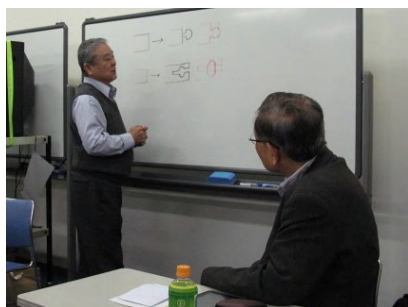
時計旋盤の超硬バイトを整形する際に工夫している点、気を付けたほうが良い点を実体験にもとづいて紹介していただきました。

素材が超硬のため先端の面を出すのにも大変な手間が掛かる所を、先に面の中心に窪みを作ってしまう事で研ぐ手間を軽減させる工夫や、研ぐ際にも透明なアクリルにダイヤモンドペーストを付けバイトを固定し、アクリル裏面から透かして刃面への当たり具合を確認しつつ作業を行うなど、目からウロコのアイディアの数々を教えていただきました。

また超硬といっても素材の良し悪しがあるようで、超硬エンドミルの欠けたものがあればそれを元に作ることを薦められていました。

皆さんもぜひ、試してみたいはいかがでしょうか。

加藤 名誉会長の旋盤教室 ジョイント巻真の製作



今回の旋盤教室ではジョイント巻真のジョイント部分を製作していただきました。

手順ですが、オス側は頭の部分の幅までヤスリで落とした後、首の部分は糸ノコで削り落として角は平らな小ヤスリで丸く整える、メス側は四つ割に挟んで、四つ割の隙間を案内にして糸ノコで溝を切りオスの頭が引っかかる部分はエグリである程度削ったら丸ヤスリで整え、その穴の先をバネの具合を見ながら更に糸ノコで切り込んで行き、形を作っていきます。

この解説の中にもオス側は糸ノコの代わりに刃ヤスリを使ってもいいが糸ノコのほうが応用を利かせられるので、ひとつ簡単なものを作っておいたほうが便利といったことや、メス側のエグリは反時計回りでまわすとやり易いといったような、細かなアドバイスが話の中に散りばめられていて、興味深くとても参考になりました。

コレクションテーマ 女性用時計

今回のテーマは「女性用時計」という事で、たくさんの小ぶりでお洒落な時計を見させていただく事ができました。

また、写真ではご紹介できませんでしたが、テーマ以外にもいろいろなコレクションをご持参いただきました。お持ちくださいました皆さまありがとうございました。



今後の日程

4/24 (日)	江東区東大島文化センター	3F	第1・第2会議室	13時~17時
5/22 (日)	江東区亀戸文化センター	5F	第2研修室	13時~17時

当会のホームページアドレスは、<http://www.nawcc108.org/>です